

第2回サロン

2020年6月14日（火）15時～
（株）東北共立様ラボにて

1. 代表理事の挨拶（岸浪代表より）

●第1回目のサロンでは、「インボイス制度について」講師の先生を招いて話を伺いました。本日、講師の先生からご提供いただいたパワーポイントの資料をお配りしております。まもなく現実的な問題になりますので、各自目を通していただき、考えていただきたい。

●第2回目のサロンでは、「安全管理」を中心とした内容で、利用する側、管理する側のディスカッションができれば良いと考えています。

●宮城県環境生活部消費生活・文化課との面談についての報告

宮城県から、協会へ話を伺いたいとお話を頂戴しました。

6/8に岸浪代表が県庁へ出向き、話をしてきました。

県としては、これまでも行ってきた「芸術銀河」という事業の中のプログラムとして、当協会が何かできるのであれば、応援していきたい、との趣旨を考えているようでした。まずは協会の活動内容を把握したいとのことでしたので、HPに記載のない組織図等提出してほしいとのことでしたので、提出することにご承諾いただきたいと思います。また、県との活動内容につきましても、理事会等での話し合いも含め、皆様にも報告していきたいと考えております。

●Yahoo ニュースで取り上げられていますが、6/13に広島国際会議場にて、舞台設備の保守点検作業中の男性が天井裏から17メートル下の客席に落下し、亡くなりました。詳しい状況はわかりませんが、このような事も起きていますので、本日の座談会を有意義なものにしていきたい。

2. エンターテインメント現場担当者・劇場管理者による安全対策の座談会

（進行：石井氏・菊地氏）

（ゲスト：宮城野区文化センター 鎌田氏）

（ゲスト：東京エレクトロンホール宮城 大崎氏）

（ゲスト：イズミティー21 今出川氏）

近年のフルハーネス着用義務等、安全管理に対して舞台関係の法令が厳しくなっています。これに伴い、安全管理の基準を見直していかなければならない劇場側、基準に則り利用するスタッフ側、それぞれの話をざっくばらんに聞かせていただきたい。

① 各劇場の現状と課題

●名取市文化会館の新規安全対策プランから説明

現状、明確な安全管理基準が設けられておらず、模索している。

その中で管理者から劇場側への提案として、1ブリッジでの高所作業において、フルハーネスとヘルメットの着用について承諾を得た。

迫り出しのフロントでの作業と 2m 以上の脚立の取り扱いに関しては、グレーゾーンとなっており、今後どのようにしていったらよいか、他の劇場さんの情報も含め考えていきたい。

●宮城野区文化センターにおける安全対策の紹介（鎌田氏）

- ・シアターホールには CL ギャラリーが 3 列あり、ヘルメットとフルハーネスの着用をいただいている。貸出用のフルハーネスを 4 セット劇場にお願いして準備をしていただいた。
- ・固定ブリッジである CL の作業床は、45cm の以上の確保はできているが、アマチュアの方の利用が多いという点や身を乗り出しての作業をしたりしているので、装着をお願いしている。
- ・会場の高さの関係で、巻き上げ式のランヤードを導入している。また、工事業者の方が使用していたロープガイドをそのまま残していただき、活用している。
- ・会場のブラケットの電球を交換する為に、10 尺の脚立があるが、貸出使用に関しては許可している。

●東京エレクトロンホール宮城における安全対策の紹介（大崎氏）

- ・現在、地震により改修中となっており、安全対策についてのルール策定をまさに始めている最中である。
- ・その中で、ギャラリーにおいての鎮積みにおいてもヘルメット、フルハーネスの装着が必要となるが、親綱を張ることができないため、課題となっている。
- ・ギャラリーへの昇降のサル梯子については、安全ブロックを取り付ける予定でいる。
- ・トーマンやタワーでの作業においてもフルハーネス、ヘルメット着用とする予定でいる。

●イズミティー 21 における安全対策の紹介（今出川氏）

- ・現在、改修中となっているが、改修前の事例として、高所 2m 以上の作業においては、全てのセクションでヘルメット、フルハーネスの着用をお願いしている。
- ・ホール打ち合わせの際から、高所作業の有無を確認し、舞台監督、各ツアーチーフから現地スタッフまできちんと共有することをしっかりとお願いし、安全につなげている。
- ・持ち込み脚立に関して規制はしていないが、ヘルメットやフルハーネスの着用を管理し、徹底して声がけをするようにしている。
- ・フロント、シーリングについては、張り出し等無いので、着用のお願いはしていない。
- ・トーマンター、ポータルでの作業については、ヘルメットのみお願いしている。
- ・ホール貸出用のフルハーネスは無い。

●10-Box における安全対策の紹介（石井氏）

- ・素人の方の利用が多い。脚立、ローリングタワーの使用においては、ヘルメットと胴ベルトの使用をお願いしている。
- ・来月より、大きい Box1 が改装に入るため、安全管理について見直しをする予定でいる。

② 現場スタッフからの意見

- ・打ち合わせの段階から、ホールさんと確認をするので、それに従っている。
- ・音響としては、高所作業がほとんど無いため、講習を受けたが、購入には至っていない。必要になった際に購入を考えようと思っている。
- ・脚立作業において、胴ベルトなのかフルハーネスなのか迷う時がある。
- ・アリーナ、野外のコンサート会場の設営においては、高所作業での着用が通常であり、定着している。

- ・ブリッジにおける作業で、相当、身を乗り出してシュートを行うことがあり、非常に危険だと思う。
- ・展示会会場やホテルにおいては、脚立の使用やジニーの使用も多くあるが、規制がなく無法地帯である。

③ 経営者・現場チーフから従事者への周知徹底に関する問題点と対策について

- フルハーネスの購入は会社で行い、使用に際し、従業員が会社に申請して貸し出す形にしている。
- 従業員の安全管理として、ヘルメットの着用を仕込み時からシュート終了時までとしている。
- 各会場に合わせて、ヘルメットやフルハーネスの着用を指示している。
- 協会として、安全管理に対し、どのように統一していくかが大切ではないか。

短い時間ではありましたが、大変有意義な座談会ができました。
ご協力いただきました皆様ありがとうございました。